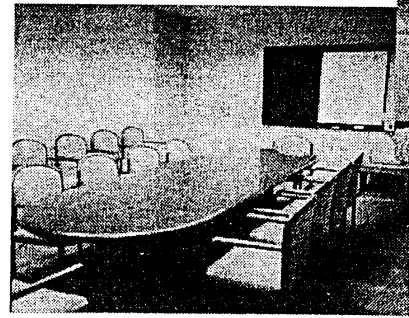


マルチメディアの中核を握る シリコンバレーと 日本の先端技術産業

ここ10年間でハイテク企業が集まり育った所と言えは、シリコンバレー、アーバイン、サンディエゴ、シアトル、ミネアポリス近郊等が挙げられる。その中でも最も活気があり、ハイテク企業が密集、そして世界中から注目されているのがシリコンバレーである。そのハイテク産業最先端の街を見学してきた。

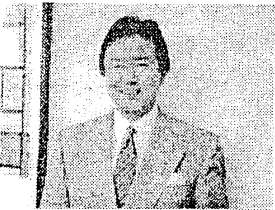


「常時満室の状況」と語る、サンノゼ大阪事務所長の田畑氏と会議室

●マルチメディア産業の中心地

ロサンゼルス空港から、サンフランシスコ、サンノゼ、オークランドといったベイエリアには1日100本以上の飛行機が飛んでいる。フライト時間は1時間。運賃は往復で100ドルから200ドル程度である。

シリコンバレーは、サンフランシスコからサンノゼにかけて帯状に広がる地域を指す。世界で初めて半導体企業の集積が形成された事から、半導体の原料であるシリコンを取って命名されたと言う。その中心はスタンフォード大学。同学は地理上の中心のみならず、先端技術産業の中核に位置する存在であり、産学協同路線を敷くと同時に人材供給の面でも重要な役割を果



シリコンバレーに会社を設立したAZCA社の石井氏

たしている。

また、半導体企業が先鞭を付けた後、コンピュータ関連の情報技術産業や、バイオテクノロジー等の各種先端技術産業がこの地に進出、米国経済の好・不況の波に左右されずに安定した成長率を維持している。

「近年、ソニー、NEC等の日本の電気、情報通信関連産業がシリコンバレーに相次いで研究開発拠点を設立しています。日本の企業に限らず、次世代のマルチメディアを背負っていく技術を持つベンチャー企業がひしめいているのです。世界の将来を占う上で、今最も注目されているのがシリコンバレーと言えるでしょうね」と、同行したハイテク分野のコンサルタント会社、ヒューテック・コーポレーション代表の石川俊夫氏は、バレーの重要性を強調する。

●情報収集が進出の目的

大阪府の出先機関であるサンノゼ大阪事務所を訪ねた。ここは、大阪からの進出企業に限らず、シリコンバレーでこれから

ビジネスを始める企業に対して、情報提供を始めオフィスと秘書を提供する形の事務サービスを行っている。サービスは利用者側の需要によっても段階が分かれている。専用個室や共有の会議室、事務機器、関連の資料が揃っていて、しかも情報交換しやすい環境が用意されている。

「ある程度、基盤が出来るまで利用いただいています。10部屋ある個室は常に埋まっている状態です」(田畑温文所長)。

企業にシリコンバレーへの進出の理由を聞いた。国際的経営コンサルティング会社、AZCA社の代表、石井正純氏は「ここが技術産業の中心で、研究開発の最先端基地だからです」とコメントしている。

それでは、日本企業の狙いとは。

「まず、第一に情報収集です。日本は高品質なハードウェアを生み出す製造技術はありますが、ことマルチメディア分野では、アメリカにデファクト・スタンダード(事実上の業界標準規

格)を握られているため、その部分で日本は不利なのです。何としても巻き返しをはかりたいところです」(前出の石川氏)

「当地における多くの日本企業は、その開発研究スタッフを現地で採用する事を前提としています。これを第一段階とすれば、第二段階では、これらの現地採用スタッフに加え、日本人研究者をより多く現地に送り込み、これらの人々によって多くの情報をいち早く入手出来るだけでなく、シリコンバレーの開放的で創造力を発揮出来る研究開発環境と研究開発のアプローチ、文化を取り入れ、日本側にスムーズにフィードバック出来るシステムを確立する事が重要になるでしょう。つまり、シリコンバレー型の研究者を1人でも多く育成し、日本の本社の研究開発体制にも当地の風土を移植する事が大切なのです。さらに、製品開発に近いところでは、先端技術を持った企業、あるいは業界の標準になる基本的な技術を押さえている企業との提携に早くから参加する事が大

変重要です。いち早く先端技術を消化するというだけでなく、共同開発等を通じて少しでも標準化に影響力を及ぼす立場になるという事です。特に、現在アメリカが技術的に優位に立っている分野では、将来アメリカのトップ企業と肩を並べる事が出来るようになるためには、(この地に進出する事が)不可欠であると言えるでしょう」(前出の石井氏)

ここでは技術者、研究者の転職も非常に多いそうだ。それが、先端技術を驚異的なスピードで拡散させている一因になっていると言う。日本は閉鎖的で保守的なまま、21世紀のマルチメディア世代を迎えるのか。日本のシステムの限界を思い知らされた今回のシリコンバレー訪問だった。

取材協力

ヒューテック・コーポレーション
(310) 328-3054
AZCA
(415) 598-9900
サンノゼ大阪事務所
(408) 283-1010